

白虎隊の「義」伝えたい

# 白虎隊の会

B y a k k o t a i N o K a i

会誌 2 号

Vol.2 2012年4月

白虎隊の「義」後世に



會

発行者 白虎隊の会

ホームページ : <http://byakko1868.web.fc2.com/>

平成23年5月に福島県白河市に「白河見聞館」が開設された（P24参照）。そこに、『山高水長（さんこうすいちょう）』という書簡集が収められている。広辞苑によれば、山は高くそびえ、水は長く流れで変わらぬことにたとえて、徳の高潔さを表わす言葉という。この書簡集は飯沼貞吉の実弟関弥（せきや）が残したものであるが、その中に山川健次郎が飯沼貞雄に宛てた自筆の手紙がある。下関万骨塔に安置した健次郎靈石の刻字はこの手紙から転写したものである。

手紙は大正13年に両陛下の飯盛山行啓に立ちあつた健次郎が、その様子をしたためたもの。「叔母上様がお詠みになつて貞吉君にお贈りになつた歌を紹介され、両殿下は実際にその歌を口ずさみあそばされ、涙されたそうです。」叔母とは貞吉の母ふみ（健次郎の母の妹）であり、「歌」とは貞吉が襟に縫い付けて出陣した

**あづさ弓 むこう矢先はしげくとも  
ひきなかえしそ 武士の道**

である。貞雄はこの手紙を受け取つてすぐに、『日の御子』の歌を詠んで健次郎に送つた。

**日の御子の 御影あおぎて 若桜  
散りてののちも 春を知るらん**

「日の御子」は陛下のこと、「若桜」は自刃した白虎隊士のことである。貞雄の母（雅号

玉章）は歌人だつたが、貞雄はその影響を受けて、歌を100首ほど残した。この歌には一緒に自刃した戦友への思いが見事に込められている。私の一番好きな歌である。飯盛山の飯沼貞雄の墓に隣接して、「日の御子」の歌碑がある。昭和63年（戊辰120年）に建てられ、揮毫は当時大沼郡本郷町にお住まいの国會議員滝沢幸助氏である。

平成23年9月24日、佐藤一男氏、石田明夫氏とともに春枝さん（故人）宅を訪ねた。

春枝さんは、「私の墓はいらないが、日の御子の歌碑を貞雄の墓の傍に建てて欲しい」と滝沢氏に懇願したという。そして、除幕の日には80歳になつていたが、テープを引きながら『有難う、有難う』と涙を流されたとのことである。

建立から23年。人との出会いの大切さを痛感した次第である。



飯盛山飯沼貞雄の墓の隣にある「日の御子」の歌碑

本郷は会津本郷焼きで有名な陶器の町。貞雄は明治27年逓信省の東京電信技術課長のとき、本郷焼を使つた電信用碍子（がいし）の新開発を働きかけ、2万個の調達に成功した。そして、この碍子は翌年の日清戦争で朝鮮の釜山—京城（ソウル）間の電信架設に貞雄の手で実装された。異国の未知戦場での情報の把握と指令に大活躍したに違いない。

この碑のいきさつが分からなくて困つてい



本郷町の千代春枝さん（故人）宅を訪ねて。『日の御子』の書が大切に飾つてある。佐藤一男氏撮影。

たが、このほど佐藤一男氏が解説してくれた。

8人の発起人の最後に「千代春枝」とあるが、この人こそが、歌碑建立を企画し、滝沢氏を動かし、費用（200万円）を用立てて実現したのである。

# 「ならぬことはなりませぬ」

副会長 木下 健 東京大学生産技術研究所教授

平成23年はわが国の歴史上、大変な年であった。大地震、巨大津波を端緒に幾つものヒューマンエラーが重なった原子力発電所のメルトダウンと水素爆発。津波被災地域の広がりの大きさ、被災者数の多さ、それと放射能汚染地域で再び居住可能となるまでの気の遠くなるような期間の長さ（20km圏内では優に100年は越えるだろう）は、人の命や故郷を暴力的に奪う権利など誰も持つてはいないことを今更ながら強く思い出させた。原子力を設計する際に行うリスクアナリシスでは人命や環境汚染等全てを損失額として便宜的に金額に置き換える。しかし、金額に置き換えて良いものといけない物があることを今回強く教えられた。（しかし、まだ何も学んでいない人も多い。）

「ならぬことはなりませぬ」

さて白虎隊の会にとつては大きな目標を一つ達成した年であった。白虎隊のいきさつを正しく理解して貰う銘板を九月に飯盛山に設置できることである。JRの会津若松駅から飯盛山へのバスで流れ

る案内までもが、史実と異なる内容であることを大変残念に思っていたが、今後改められるであろうと期待するところ大である。多数の白虎隊の会の会員が参集して除幕式を出来たことは、佐藤一男様、飯沼事務局長他のご努力のたまもので感謝に堪えない。

さらに十月には白虎隊の会が長府万骨

塔に山川健次郎零石を納めることができ

た。この安置式に多数の白虎隊の会の会員が参集して除幕式を出来たことは大変めでたく有り難いことであった。何よりも金田満男長府博物館友の会会長、吉井克也下関支部長他の長州の方々の高貴な魂に触れることができ、私個人として深い感銘を受けた。

厳冬十二月には、みぞれのなか斗南藩

の史跡を訪れた。藩士上陸の地、柴五郎一家他の住居跡、藩主容大公、先代容保公にお住まい頂いた円通寺、藩士の墓を訪れた。墓地に建っている石碑に刻まれた、祖母照子（健次郎二女）からよく聞かされていた權大参事山川大蔵の歌、「みちのくの斗南いかにと人問はば神代のままの国と答えよ」を見つけ、筆舌に尽くせぬ苦労な仕事を凜々しく対処していた若き家老、大蔵の粹な男ぶりを思い浮かべ涙した。大蔵は白虎士中二番隊士達の憧れの兄貴だったに違いない。

次は私事になるが、五月に九州大学創立百周年の記念として、山川健次郎胸像が会津若松市から寄付され除幕式に参加した。喜ばしいことに健次郎の人となりを紹介し建学の精神を学生、教職員に思い出させる冊子

「修養が広くなれば完全な士と云うべか らず」

以上

が刊行された。東北大震災、特に原発事故後の我々は、そして社会はもつと、もつと謙虚に修養を積まねばならない。九大訪問の後、柏木隆之助先生のご厚意で田原坂、阿蘇の鬼官兵衛記念館にご案内頂いた。館長の興梠二雄館長は官兵衛が世話になつた白水村の興梠さんの御孫様のご人徳の士である。

嚴冬十二月には、みぞれのなか斗南藩の史跡を訪れた。藩士上陸の地、柴五郎一家他の住居跡、藩主容大公、先代容保公にお住まい頂いた円通寺、藩士の墓を訪れた。墓地に建っている石碑に刻まれた、祖母照子（健次郎二女）からよく聞かされていた權大参事山川大蔵の歌、「みちのくの斗南いかにと人問はば神代のままの国と答えよ」を見つけ、筆舌に尽くせぬ苦労な仕事を凜々しく対処していた若き家老、大蔵の粹な男ぶりを思い浮かべ涙した。大蔵は白虎士中二番隊士達の憧れの兄貴だったに違いない。

# 本年度の事業をふり返つて 事務局長 飯沼一元

本会の目的は「白虎隊の“義”」を後世に伝えることである。そのための活動としては、①調査・研究、②会員相互の交流、③事業やイベントの企画の三本柱で運営することにしている。初年度は①と②が活動の中心で、③の事業については、その仕込みに時間を費やした。

二年目は③の事業を本格化して左記の二つを中心進めることにした。

一、白虎隊自刃の地に説明版を設置する

二、万骨塔へ山川健次郎靈石を安置する。

ところが、3. 11で年度の前半は震災対応に追われた。特に、福島原発では数度にわたって水素爆発が発生し、放射性物質が風に乗つて飛散。炉心溶融を惹き起こすという世界最悪の事態となつた。政府からは詳細データの開示がなく、専門家の無責任な説明に終始したため、東京脱出をはじめとする疎開者が沢山現れた。

事故現場に近い柏葉町や大熊町などの住民は会津に強制避難したので、観光地会津はあつという間に避難民収容の町となつた。

白虎隊の会の会員からは兎に角、「会津義援金を集めよう」という声が起つた。そこで、当初予定していた春の会津祭り（4月22日）

24日）を見送り、急遽、会津義捐金を募り、集まつた20万円を五月に会津支部の手で被災地にお渡しした。詳細はP 13～15参照。会員の皆様のご協力に心から感謝致します。

本会の事業としては、歴史を形にして、後世に史跡として残したい。予算の関係で大型の史跡造りは困難であるが、説明版ならできる。

自刃の地説明版は、本会の最も重要な事業と位置づけ、幾多の問題を乗り越え、九月の会津祭りで実施に漕ぎ着けた。詳細はP 5～7 参照。この時、佐藤一男氏の熱心な取り組みにより、飯沼貞雄記念碑の復刻版が同時に完成した。

この碑は明治32年戊辰90年祭に、飯沼貞雄の墓が飯盛山に建てられた時に、(財)前島会仙台支部の手で墓に隣接して創られた。貞雄が仙台で没して26年後のことである。碑文は風化して、殆ど判読できない状態であつたが、佐藤氏が何度も現地に足を運んで碑文を解読し、分かりやすい表現に復刻した。

山川健次郎靈石安置事業は下関支部の熱心な取組みにより、完璧なお膳立てで盛大に執り行われた。会津では未だに知る人は少ない

と思われるが、とても有意義な歴史に残る事業だと自負している。詳細はP 8～12参照。

その他のイベントの中で特筆すべきことは、八月に開催された旧京都府庁講演会で、長州

藩士橋崎頼三のご子孫と対面したことである。頼三は飯沼貞吉を長州で養育した人物と言われているが、これまで確証は無かつた。頼

三の一人娘まつの曾孫に当たる松葉玲子様の口から「貞吉の母親宛に密書をしたためた」との証言が得られたことは、本件の確証となる。



飯盛山にある飯沼貞雄記念碑(右)と碑文復刻版(左下)。  
左上は飯沼貞雄の説明版。この左に貞雄の墓がある。

# 白虎隊自刃の地説明版設置 飯沼一元

本会の最初の事業として飯盛山白虎隊自刃の地に説明版を設置することとし、二年前から準備を進めてきた。その趣旨については、創刊号P20に述べたが、以下に要点を整理しておくる。

①この地は会津のメッカであり、多くの人が訪れるが、当地には説明版がない。このため、  
②白虎隊士が何故自刃したかが分からぬ。

（日辰附）三が作古時、今が外ノアリ

③「城が落ちた」といふ「落城誤認説」が定説化しているが誤解である。なお、落城は自刃一か月後である。

最近発見され、そこに自刃理由は「帰城か玉碎かを巡って激論したのち武士の本分を明らかにするため自刃した」と明確に記されてい

⑤そこで、説明版を設置して史実を分かりやすくすることにより、白虎隊への理解を深めていただくことを旨とした。

卷之三

実行に当たつて、まずは地元関係者の了解を得ることが必須である。真部支部長のご努力で、会津弔靈義会と墓地管理委員会に相談していただいた。本件の企画趣旨、説明文案、裏づけ資料などを用意して少しづつ理解を進めていただいた。2011年4月6日に弔靈



## 飯盛山白虎隊自刃の地に設置した説明版

義会から本会宛に申入書が提出され、8項目の検討事項が示された。そのうちの一つは9月への実施延期であつた。当初は4月の会津祭りに除幕式を計画していたが、震災の影響が甚大なため、9月に延期して、この間に調整を図ることにした。残りの5項目は文章表現に関する内容、他は貞雄文書の公開、会津関係者への周知であつた。

れ、白虎隊の会役員の皆様の意見を取り入れながら最終案を固めていった。木製、鉄製、ステンレス製といった材質、塗装、柱太さ、堅牢性、メンテナンス、予算などを総合的に勘案し、柱ステンレス100ミリ角・縦70cm横1m・高さ180cmの構造が決定した。

慶応四年（一八六八）八月二十三日（新曆十月八日）、年齢が十六～十七歳で構成された士中二番隊の白虎隊士は猪苗代から十六橋を越えて進撃した西軍と戸の口原とくばるで交戦するも、敵の軍事力に圧倒されてしまひ、戸の口洞門をぐぐつてこの地に至つた。

炎上する城下を前に、玉碎か帰城かを巡って、激論を戦わした。敵陣突入を提案する者もいれば、鶴ヶ城が簡単に落城するはずはないとして帰城を主張する者もいた。しかし、最終的に「誤つて敵に捕らえられ屈辱を受け申訳なく、祖先に討しても申訳ない。この場は潔ぎよく自刃し、武士の本分を明らかにするべき」との決断にはじめて、全員が同意し、一同列座し南鶴ヶ城に向かって訣別の意を表し、全員が自刃した。

後、一名が蘇生、その名は飯沼貞吉である。なお、鶴ヶ城開城はその一ヶ月後であつた。

(二〇二) 九月二十三日  
(飯沼貞雄書白虎隊顛末記参考)

白虎隊自刃の地説明版除幕

飯沼一元

除幕式は秋の会津祭りの初日、9月22日午後2時に設定した。翌日は会津の最大イベン  
ト藩公行列、翌々日は飯盛山で白虎隊墓前祭  
が開催される。除幕の目的は関係者へのお披  
露目と周知である。会津弔靈議会からの申入  
に応えるためにも、この序幕式は重要である。

ご招待状のご案内先 ご来賓者ならびにご来

賓挨拶者の選定については、会津支部長の真部正美氏が周到な準備をしてくださった。

主なご来賓は市長、中靈議会理事長、墓地管理委員長、市議会議長、観光協会課長、商店会長、町内会長などである。進行役は会津支部事務局の井関一浩氏となつた。

前日からの大型台風の影響で当日は交通機

関が麻痺。郡山駅でタクシー乗り場に二時間行列し二万円かけて現地に到着したのは予定より三時間遅れの十二時半。おまけに、この頃から土砂降りの雨となり、開催さえ危ぶまれた。正に白虎隊にふさわしい波乱の幕開けである。

しかし、開始5分前ぐらいから雨も小降りになり、約50名の参列者を得て、除幕式は予定通り遂行された。関係各位には心から感謝

この日、私は白虎隊の子孫として、あの日（白

虎隊自刃の日）のことを思い浮かべていた。戦いに敗れ、仲間を失い、怪我人を抱えながらこの飯盛山に辿りついた。貞雄はこの時の状況を「南、若松城を望めば、炎焰は天に漲り、敵砲声は地に轟く。北、滝沢街道を看れば、敵兵の行進する其の数幾ばくなるかを知らず」と記した。

そして、帰城か玉碎かを巡って喧々諤々の議論を戦わした。結論を下したのは隊長代行の篠田義三郎だった。「自刃して武士の本分を明らかにする」。そして、貞雄は「議論ここに始めて定まり、おもむろに用意を為し、一同列座し鶴ヶ城に向え遙拝訣別の意を表し、從容として皆自刃したりき」と結んだ。

自刃は武士のデモンストレーションである。皇国にひたすら仕えながら、朝敵とされ、殺戮され、襲滅される。二の理六尺二寸

彼らは抗議し、一糸乱れぬ自刃を以つて、自分達の「義」を表現したのだ。「城が落ちたと思ひ、殿の後を追つた」などといふ幼稚な解釈され、壊滅されたこの理不尽に対する憤りで

糀が100年以上続いた。しかも、地元の会津で。これ以上彼らを侮辱し続けてはならぬい。

翌日、河北新報に勇敢な記事が掲載された。

ここまで踏み込んでいない。100年の重みは簡単には解消しないのである。「飯沼は先祖の名誉挽回を図っている」といわれることがあるが、私は「白虎隊」の名誉を挽回したいのである。



# 除幕式に参加して

WEB担当役員 京都支部 戸田美佐子

白虎隊自刃の地説明板の設置は当初四月に予定されていましたが、東日本大震災のため九月に変更となり、除幕式は九月二十二日、設置場所の飯盛山白虎隊自刃の地にて執り行われました。

この日は、前日の台風の影響で郡山から若松までの鉄道およびバスが運休となつており、朝一番の大坂発のフライトで福島空港に着いた私はその情報を空港のインフォメーションで初めて知ったのですが、会津支部の役員である安司さんが空港まで迎えに来てください、白河方面から南廻りで本郷を経由して会津若松入りしました。東京・関西方面から来られた他の会員の皆さんも、タクシー等を利用して若松に到着され、飯盛山下の「とらぞう」で全員合流することができました。

雨模様の天候で、式典の開催が心配されましたがあ、開始予定の午後二時前には幸い小降りとなり、除幕式は無事挙行されました。一年以上にわたって準備を進めてこられた事務局長と会津支部の役員の皆様のご苦労が報われ、私もほっとしました。

ご多忙中にもかかわらずお集まりくださつたご来賓の方々を代表して、会津若松市長・

室井照平氏ほかにご挨拶をいただき、会津藩

ていただぐのに大きな役割を果たしてくれること思います。

白虎隊士はお城が燃えていると誤認したのではなく、敵に囲まれた当時の状況をしっかりと把握し、議論の末に「武士の本分を明らかにする」として自刃したのです。彼らは判断力に欠ける子供ではなく、一人前の立派な「武士」でした。

この記念すべき除幕式に参加できたことに喜びを感じるとともに、お世話くださった皆様に心から感謝します。



除幕式後の記念撮影。前列右端は室井市長。左端は飯沼一浩夫妻  
筆者は後列右から2人目。



飯盛山右手階段下にある白虎隊自刃の地

白虎隊士の自刃の理由を観光客に正しく知つ

# 下関萬骨塔への山川健次郎靈石安置の企画・推進

— 下関支部長 吉井克也

## ○萬骨塔とは

萬骨塔は、昭和八年に長府毛利藩士の子として生まれた桂彌一によつて建立されました。彌一は、吉田松陰の意志を受け継いだ入江九や品川弥二郎の志を実現するため、私財を投げうち「長門尊攘堂」（現長府博物館）の建設にあたり、萬骨塔はこの建物と同時に建築されたものです。

“一将功成りて萬骨枯る”から命名され、一将の功は、無名戦士の犠牲の上になりたつており、國のため世のために尽くしながら散つていった士を祀るための塔です。

全国各地から寄せられた靈石の中には、青森県代表靈石、会津白虎隊靈石、廣繹安任靈石もあり、彌一は塔の建設時から、怨念やわだかまりを越えて全ての諸士に温かいまざなしせ注ぎながら、全身全靈をもつて築造にあたつたのです。（「山口県の不思議物語」参照）

## ○発端・経緯

平成二十二年三月に会津から御来関された佐藤一男先生や星亮一先生御一行様を囲んで、白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの田中絹代記念館（旧赤間関通信局）の会議室で、下関市副市長外多数の有識者と歴史座談会が行われました。この場で白虎隊の会京都支部長の中村正氏が途中帰京された飯沼一元氏の伝言「貞吉が長州で養育されたことを史実として断定したこ

と」や「貞吉初任の地にゆかりの石碑等の建立を願つてること」などを話されました。

続いて長府博物館友の会会長の金田満男氏が、実は「長府博物館に隣接して萬骨塔があり、その靈石の中に会津飯盛山で自刃した白虎隊士十九名の名を刻んだ靈石がある。」と述べられました。

その後、五月に飯沼氏から「飯沼貞吉・山川健次郎連名の靈石安置案」と山川健次郎史料の送付がなされ、七月には金田氏から「白虎隊士靈石十九名の中に飯沼貞吉（津田捨三が脱落）が入つており、同一人物の二重設置は不可能」との回答があり、八月には、飯沼氏が白虎隊説明板を現地に設置する案を提案されました。

これらと平行して、金田会長から飯沼氏へ萬骨塔平和記念祭六十周年式典へのご案内があり、平成二十二年十月二十日の式典終了後、博物館長室で両氏が白虎隊説明板について率直に話し合われました。その席で金田会長は『白虎隊の説明板設置は難しいが、山川健次郎靈石安置については可能性があること』を示唆されました。

この日から、双方関係者による健次郎靈石安置に向けて次のような活動が始まったのです。

①三月一日 博物館友の会では三度の役員会の後健次郎靈石安置の方針を決定。これを

受けて白虎隊の会も靈石の寄進を決定。

②三月二十一日 友の会から、靈石の大きさや位置、墓碑銘、費用分担などについての案を白虎隊本部に報告。白虎隊の会も靈石探しや関係者への協力依頼等の具体的な活動を開始。

③五月十日 靈石刻銘は、健次郎の書簡署名活用を検討。

④七月一日 佐藤一男・石田明夫両先生による靈石原石（磐梯石）の選定。

⑤十月一日 長府博物館に靈石到着

⑥十月八日 万骨塔に靈石安置作業

⑦十月十九日 前夜祭

⑧十月二十日 除幕式・慰靈祭

あの未曾有の大震災後の混乱の中、双方ともに様々な困難を乗り越えながら、この度の健次郎靈石安置の実現に到つたのです。



# 健次郎靈石除幕式と萬骨塔慰靈祭

下関支部長 吉井克也

## 一 除幕式・慰靈祭の前に

一同9時00分に功山寺集合。その時、会津からの車が到着。不眠不休で駆けつけてくださった佐藤一男先生、石田明夫先生、鍋谷隆氏に、お札の言葉を失う。

功山寺有福住職（慰靈祭の司祭者）のご好意で、八月十八日の政変により京都落ちをした七卿の「潜伏の間」などを見学し、住職のユーモア溢れる説明に一同大いに和む。美味しいお茶を一服し、式典に臨む。

## 二 除幕式

十時から、秋晴れの青空の下で除幕式を行う。引綱は、木下健、飯沼一元、佐藤一男、石田明夫、柏木隆之助、金田満男、阿座上晴章、西岡輝昭、鍋谷 隆、吉井克也の諸氏が持つ。除幕とともに、黒地の磐梯山石に白い墓碑銘「会津白虎隊士 山川健次郎 靈位」が秋陽に照らされ鮮やかに浮かびである。

## 三 慰靈祭並びに平和祈念祭

引き続き式典が次の通り行われた。

- 一 開会のことば
- 次 第

- 三 参列者焼香
- 金山功山寺住職
- 有福孝岳

- 長府博物館友の会会長 金田満男
- 下関市長代理 阿座上晴章

## 四 挨拶の要旨

金田会長様、山川先生は、乃木大将を「信の人」と尊敬し、乃木大将も自分の精神を受け継いでくれるのは山川先生と高く評価していた二人の関係と、靈石安置までの経緯について、思いを込めて紹介された。そして、この靈石安置が東日本大震災の被災者の方々のお力の一助になれば…と締めくくられた。

木下健様、「山川は乃木さんと奥平謙輔さんを尊敬していた。この地に安置して頂き、本人も喜んでいると思う。」と万感胸に迫る面持ちで謝意を述べられた。

飯沼一元様、「山川は乃木さんと奥平謙輔さんを尊敬していた。この地に安置して頂き、本人も喜んでいると思う。」と万感胸に迫る面持ちで謝意を述べられた。

## 五 意義

清々しい秋空の下で、会津と長州の心が溶け合うような深い感動が、ご参列の皆様方に広がっていった式典でした。

山川健次郎と飯沼貞吉は従兄弟であり、ともに嘉永七年（一八五四）の生まれであります。また、健次郎は奥平謙輔に、貞吉は樺崎頼三にと、ともに長州藩士によって一時期保護・養育されました。その後我が国近代化に多大なる貢献をしました。その二人の靈石がこの地「長府（乃木の里もある）」に寄り添うように安置されることに大いなる天命を感じます。

健次郎と貞吉は、今後私たちを「歴史の真実追及」へと誘い、同時に「逆境の中でも未来志向で生きる大切さ」を語り続けてくれるでしょう。その先に、会津・長州の新しい絆も見えてくるのではないかでしょうか。



# 山川健次郎靈石の制作

顧問 佐藤 一男

会津磐梯山は活火山（成層火山）で「病脳山」とも「いわはしやま」とも呼ばれ天に掛かる岩の梯子と崇められ、母なる猪苗代湖は天鏡湖と呼ばれ親しまれた。湖中に東京都内の山手線が走るという磐梯朝日国立公園に属して会津の宝である。

磐梯山はスコリア噴火や軽石噴火と山体爆発を繰り返し、明治二年（一八八八）の水蒸気爆発で荒々しい肌を見せる輝石安山岩系である。

徳川家康の孫で三代將軍家光の弟の保科正之公が寛永二十年（一六四三）に会津若松に入城し、早々に金銀鉱山開発につとめた。正之は磐梯山を崇め、眼下に澄む天鏡湖の鮮やかさを詠み磐梯神社の末社となるべくここを永遠の眠りの地と定められた。

”万代といはひ来にけり会津山

たかまの原のすみかもとめて“

正之公が寛文十二年（一六七三）十二月に

没し、墳墓や土津神社が造営され、会津松平家の靈廟は全て磐梯山石が使われている。

## 健次郎靈位の制作にあたつて

靈石選定は次を旨とした。江戸への道は猪苗代湖岸を行く路であり、対岸に眠る

土津神社を遥拝するのが慣わしとしていた。

戊辰戦役の道のりにある磐梯山スコリアでなく、純粹な輝石安山岩をさがし求めた。著者は元鉱山師である。由緒ある石であると共に、風化しにくい石を捜し求めたが、半年があつという間に過ぎた。

塩川町は阿賀川舟運と米沢街道宿場として栄え、本陣や代官所が設けられていた。塩川宿は会津藩士らと雇用関係などゆかり深く、蘇生者飯沼貞雄は塩川御本陣で治療を受け、城外兵や家族たちは船場の民家や藩の米蔵などに謹慎した。

塩川町にある古川石材店は祖父のころに松平藩主が眠る東山の院内御廟の補修などに関わりがあり、原石の探索にも協力していただいた。ふさわしい材質が見つかったのは会津若松市河東町渡邊氏所有のもので九月半ばに譲り受けた。

次は刻字である。飯沼事務局長提供の山川健次郎直筆の名を写し、これに模して「会津白虎隊士」の文字を刻む。書は熱塩加納町半在家に祀る葦名義連公の墓守だった原家子孫の湯浅佳子氏にお願いした。



湯浅氏と石川社長  
中央は筆者



完成した健次郎靈石



靈石提供者渡邊氏

について、後世のために手がかりを残すべきと考え、「白虎隊の会」の落款を目立たないよう付刻することにした。こうして縦40cm、横35cmの山川健次郎靈石が完成し、十月四日発送、十月七日に下関に到着した

# 萬骨塔の白虎隊靈石

顧問 佐藤 一男

私が下関長府の功山寺を尋ねたのは、2001年のことである。下関の郷土史家時山増一さんに案内をお願いした。この地は高杉晋作が騎兵隊を挙兵した場所として有名であるが、山号金山功山寺は曹洞宗の毛利家菩提寺で仏殿は国宝に指定されている。その境内にある尊攘堂は昭和8年（1933）10月

に吉田松陰や品川弥二郎の遺志を継いだ桂弥一が、勤皇の士を顕彰するために建てた。この建物は国の登録有形文化財で、昭和55年から市立長府博物館として下関市の歴史と文化を基本にした常設展示や幕末維新関係の資料等が公開されている。

その隣にある萬骨塔は高さ7m、直径13mの土饅頭型の慰霊塔である。弥一は当時の府県ごとに無名、有名を問わず「一将功成つて万骨枯る」にふさわしい志士を集めると説明版に記している。

吉田松陰、玉木文之進、高杉晋作、久坂玄瑞らの長州藩士の名前が並んでいる。西郷隆盛、大久保利通の薩摩勢、土佐の坂本竜馬の名前もある。賊軍の汚名を着せられた会津関係者は祀られていないものと思って、ぐるりと一周すると、ひときわ大きな白虎隊靈石が目に留まった。

驚いて、取り急ぎカメラに収めたが、靈石は苔で汚れ、白虎隊士名はよく判読できなかつたが、19名の名が刻まれていた。

二度目にこの地を訪れたのは2010年3月である。中村さんの取り計らい、長府博物館友の会の金田会長らの案内のもとに、自刃者名を良く見ると、蘇生した飯沼貞吉の名があり津田捨蔵が見当たらぬのに不思議を感じた。石質は柵越しの観察で磐梯山の比較的粗放性に富んだ安山岩系スコリア（溶岩）と思われた。

建立者は福島県教育界、寄進者吉田辰哉、宗近鵬介、森川電蔵とある。手がかりを求めて、建立された昭和8年当時に毎年発行される「会津紳士録」や会津各種団体の名簿を調べてみたが、載っていない。ちなみに、会津の森川姓は22軒、吉田姓は455軒があり宗近姓は見当たらぬ。森川姓は会津の名門であるから、浄土宗の墓地を調べてみたが、墓域は広く、積雪のため確認できなかつた。

戦前の教育はすべて国政の範囲とされ、知事や市町村長が教育事務を執行しており、「福島県教育界」と寄進者氏名から割り出せるものと期待したが、不思議さが残る。



万骨塔に安置された「会津白虎隊靈位」昭和8年。  
イロハ順に19名の氏名と年齢が記されている。

# 萬骨塔慰靈祭に参加して

— 涉外担当役員 正井良治

毎年十月二十日は下関長府の萬骨塔で慰靈祭が開催されます。私は長府を訪れるたびに、萬骨塔と墓地を参拝していますが、これまで慰靈祭に参加したことはありませんでした。このたび、山川健次郎靈石安置が縁で出席でき喜んでいます。

今回のイベントは、2010年秋の飯沼一元氏の長府訪問が切っ掛けとなり実現しましたが、私にはこの地に特別の思いがあり、慰靈祭参加は意義深いものとなりました。

長府は、長州支藩の旧長府藩の城下町であり、私の先祖が代々、藩祖毛利秀元公の時代から長府毛利家に仕えてきた場所です。明治期にも、東京から長府に戻られた旧藩主毛利元敏公に従い、四代前の高祖父母（三吉慎蔵、イヨ）、曾祖父母（三吉玉樹、トモ）、祖母（梅子）が暮らしていました。

先祖の墓は菩提寺の法華寺にありますが、明治三十四年に慎蔵が死去したときに元敏公の意向により功山寺毛利家墓所横に墓地を賜つたため、慎蔵とその家族は功山寺に眠っています。

また、長門尊攘堂と萬骨塔を造った旧長府藩士桂弥一は、曾祖父三吉玉樹と兄弟の義を結んでいました。慎蔵の次女トモの婿に玉樹

を世話したのが、乃木希典と幼馴染で親友の桂弥一でした。

その萬骨塔には、三吉慎蔵、桂弥一そして彼らが参加した長府報国隊の靈石があり、また祖母梅子を養った乃木希典夫妻、乃木の縁者玉木文之進・吉田松陰たちの靈石も安置されています。私にとっては、長府・功山寺・萬骨塔は、先祖縁者が眠る神聖な故郷なのです。

三吉慎蔵の靈石は、比較的新しく2007年に安置されました。理由は、薩長盟約成立直後の寺田屋騒動で坂本龍馬を助け、龍馬から命の恩人として信頼されていたこと、維新後に藩の権大參事となり、また廢藩後は毛利家の家扶を務め旧恩に報いたこと、長府で家が隣だった乃木希典と互いに尊敬しあい親しく交際していたこと、などであろうと思います。

残念なことですが、長府の萬骨塔は同じ山口県の萩ですらその存在を知る人はあまりいません。ましてや萬骨塔の目的とするところは、世間に殆ど知られておりません。

尊攘堂は品川弥二郎の意思を受けて造られましたが、萬骨塔は桂弥一の独自の考え方で建造されました。それは、幕末から明治にかけ

て活躍した全国の先人を東西分け隔てなく慰靈するためでした。賊軍を祀ろうとしない靖国神社とは異なり、国のために尽くした先人は等しく祀りたい、との桂弥一の人間の大さが見て取れる場所です。

慰靈祭に参加し、萬骨塔を守り育ててこられた方々に感謝するとともに、この萬骨塔の存在と建造の精神をぜひ全国の多くの人に知つていただきたいと改めて感じた次第です。



左から筆者、三吉治敬氏（三吉慎蔵子孫）、木下健氏

# 会津支援活動に思う

— 飯沼一元

福島の被災の大部分は原発事故に起因する。会津支部報告ならびに石田レポートにあるように、地震の影響は大きくは無かつたが、観光地会津としては「フクシマ＝放射能汚染」という風評被害をもろに受け、観光客は激減した。観光地店舗の売上は前年度80%減とう。

観光客に代わって急遽会津になだれ込んできたのは原発避難民で、その数2万人という。町の行政構造が変わってしまったといえる。この状況に対して、白虎隊の会としては、先ずは義援金の募集を開始した。僅か130名の会員、福島在住者を除けば75名であるが、量の問題ではなく、気持ちの問題として、行動を開始したのは自然の成り行きと言える。

4月末までに約20万円の寄付金が集まつたので、その支援先の選定を真部会津支部長に依頼した。僅かな金額とはいえ、会員の志が詰まつた大切なお金である。巨大な募金ブルではなく、用途が分かり易い送り先を探していただいた。出された答えは、会津に避難中の大熊町と樅葉町役場だった。私は、収入が激減した観光地も候補と考えていたが、避難民を優先したのである。会津の潔癖性が伝わってきた。

その後、9月の説明版除幕式の後、会津若松市長を訪問し、市が推進中の「青少年育成基金」に10万円の義援金をお渡しした。被災からの復興は若者達に委ねざるを得ないと考えるからである。

ところで、原発被災からの復興の道筋は描けるのだろうか？ 私には暗澹たる思いからまだ脱却できない。原発事故の原因は天災＋人災である。「フクシマ」は、まず、「事故責任はフクシマには無い」ことを、明確にすべきである。そのためには、「全ての放射能汚染物質の県外撤去」を徹底的に主張して欲しい。その実行方法は責任者（国と東電）が考るべきことである。国の責任は国民の責任であり、ここに沖縄と同じ「超難問」を国民が共有しなければならないという意識の原点が生まれる。

一方、会津にとっての復興の鍵は観光客を取り戻す具体策であろう。「会津の魅力は何か？」については、震災前からあいまいになっているようと思える。震災後、会津の「ふるさと宅急便」を取り寄せたが、毎月届く会津特産品には殆ど見るべきものが含まれていなかつた。

会津観光にとって「白虎隊」は重要である。



会津若松市長室訪問。前列右から3人目は室井市長、その右隣は筆者。9月22日

だが、飯盛山の観光施設は訪問者から見ると落第である。旧態依然とした展示物は京都や長崎に比べると格段に見劣りする。この危機をバネに、先人が培った会津魂を再現して欲しい。

# 会津の被災状況と復興への道筋

研究担当 石田明夫



石田明夫氏

会津の歴史研究家。『直江兼続とふくしま』に続いて、『山本八重子』の毎週連載など意欲的な活動を展開。

東日本大震災では、会津も地震による被害とその後の福島第一原発による観光や農産物に対する甚大な被害を蒙った。地震は、会津若松市の震度は5強、地震があつた時刻に私は、市東公民館で業務をした。棚に置いていた食器や本は散乱し、棚やテレビも倒れ、立てられないものであった。その時から3日間は、東公民館が一時避難所となり、周辺住民約50人が避難してきたことから、家に帰らず昼夜、避難者の世話をした。

これは慶長会津大地震の再来かと思うほどであった。慶長16年（1611）、会津盆地西縁の断層が動き、天守閣が傾き、死者約3700人、2万戸倒壊、会津盆地西側には桧原湖に匹敵する山崎新湖が新たに出現した。

今回は、会津若松市の大町で一人死亡。東山町や一箕町、門田町では、液状化現象と断層が動いたことにより、全壊または半壊した

家屋が百棟を越えた。猪苗代町では、川桁断層が動き、断層上の家屋が20棟以上全壊、町内ではいたるところで液状化現象が起きた。

鶴ヶ城は天守閣の赤瓦が落下し、壁にひびが入ったものの建物全体は軽症だった。しかし、本丸東側、廊下橋裏側の石垣が崩落し、月見櫓と茶壺櫓間の石垣も崩落寸前となつた。白河市の白河城では本丸の石垣が大幅に崩落し、再建までには10年近く要することとなつた。猪苗代町の保科正之公の墓所である土津神社では、墓の鎮石と灯籠が崩れ、復興には数千万円の費用を要することとなつた。

&lt;/div

# 会津支部報告

支部長 真部正美

平成23年は、会津支部がある福島県にとつて最も過酷な年であつたと思います。

3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故が大きな爪痕を残しました。

会津若松市は、震度5強の揺れでした。地面が波を打ち、棚の物は落ち、部屋は散乱し、

自立しているのも困難な状況でありましたが、会津全体では大きな被害がほとんどありませんでした。しかしながら、その後の原発事故が会津にもたらす影響を想像することはその時はできませんでした。

放射能を恐れて、観光の街である会津にお客様が訪れなくなつてしましました。「フクシマ」というだけで、いわれなき中傷を受けるなど心を痛める報道が多数されました。今、現在は少しずつですが、観光にお越しになる方も増えてきています。しかし、修学旅行がまだ戻つておらず、以前の様な状態ではありません。

原発事故により、原発立地であった大熊町や楢葉町の住民の方々が会津地域に避難してこられ、現在も仮設住宅等に住まわされており、故郷へ帰れない不安な日々を過ごされており

ます。

避難された方々へ白虎隊の会の皆様の温かい義捐金を両町の皆様へお渡しすることができました。両町の方々も心より厚く感謝していました。



楢葉町への贈呈(右は筆者)



大熊町への贈呈

当日は、全国各地より白虎隊の会の皆様方がお集まり頂き、また、当市からは室井照平会津若松市長にもご臨席頂きご挨拶を頂戴いたしました。

式では、飯沼一元事務局長から説明版のいきさつや内容についてお話しがあり設置の意義について参加者全員が理解されました。

当日はあいにくの雨模様でありますでしたが除幕式直前になり小雨状態になり式を無事執り行うことができました。

会津へお越しの際は是非ともご覧下さい。



説明版除幕式

京都支部だより

京都支部長

中村  
正

2年目を迎えた京都支部は、年末に女性1名（別役さん）の入会があり総勢21名になりました。別役（べっちゃん）さんは、京町

祇園祭りの宵山に、支部会員の司太夫の特別ガイドで「輪違屋」、「壬生寺」、「旧前川邸」、「新徳寺」の幕末史跡見学をしました。

幕末探訪も夕刻になってきたので予約した料理屋の2階に移動、貸切で楽しく宴会をしました。その後それぞれ祇園祭の人ごみに消えていきました。

（笑）&バーの店」で、知り合い30分後には即入会という超スピードでの入会者となりました。

もう一人のユニークな入会者は、木村健さんです。私は近所の行き付け（数軒）の店に「白

虎隊の会のポスター」を貼つてあるのですが、その中の散髪屋さんの店内に貼つた、「ポスター」を見て入会してくれました。他支部では、ポスターをどんな場所に貼つて効果はいかかですか？

さて、昨年度（2011年）の京都支部の主な活動について報告いたします。

1月26日(水) 飯沼一元事務局長が特別講演

私の知人から依頼があり、大阪（ホテル阪急インター・ナショナル）で飯沼一元事務局長に特別講演をお願いした。会場には150名

**6月12日（日）会津会の法要へ参加**  
黒谷金戒光明寺で会津会の法要、直会など  
があり、白虎隊の会から正井さん、司太夫、  
木村健さんが参加。

7月16日（土）京都支部、夏の納涼会



主催は、京都府府有資産活用課内、府庁旧

本館利活用応援不<sup>ツ</sup>ト。タイトルは、「生き残り白虎隊士の孫が語る”逆境の克服“」。飯沼さんは何度も目かの講演でしたがその度に新しい内容を追加しバージョンアップされています。会場は、定員80名のところ100名の大盛況。講演後、会場に東京からこの日の為に来られた「長州藩士樋崎頼三の子孫（ひ孫の松葉玲子さん）」が、演壇に出て来て飯沼さんと初めてのご対面。会場に詰め掛けていた新聞記者からフランシスの嵐。その後、すぐに別室で記者会見。会見で、松葉玲子さんが、「重要な密書があつたと母に聞いた」との話をされ一同驚き、飯沼さんも「それが本当なら一年級の証拠になる」、「是非、今後の調査を期待したい」と返事をされ、笑顔で松葉玲子さんと握手をされた。

この記者会見後、白虎隊の会京都支部会員と飯沼さん、松葉玲子さんを囲み近くの居酒屋「さむらいカフェ&バー」で、懇親会を行い、今後の情報交流を約束しました。これを機会に、樋崎頼三の子孫（現当主松葉玲子さんの弟）の方もこの話を容認してくれるといいのですが…。いずれにしても、今回の京都講演が、飯沼貞吉長州滞在説の裏付けの大きな一步になる事を期待したいと思います。

9月23日、24日（金・土）飯盛山白虎隊墓前祭、

京都支部からの参加者は6名。（中村正・正井良治・戸田美佐子・司太夫・伊藤麻弓・木村健）詳細は、「除幕式に参加して」。  
「白虎隊案内板」除幕式への参加  
京都支部からの参加者は3名。（中村正・正井良治・伊藤麻弓）詳細は下関支部ページ他参照。  
10月20日（木）下関市長府功山寺（万骨塔山川健次郎靈石除幕式）への参加  
京都支部からの参加者は3名。（中村正・正井良治・伊藤麻弓）詳細は下関支部ページ他参照。  
11月19日（土）歴史探訪（支部勉強会）&忘年会

京都支部から石田明夫さんご夫妻にも特別参加していただき、鳥羽伏見の戦いの史跡見学と懇親会を実施。石田さんには、再来年のNHK大河ドラマ「山本八重」について特別ミニ講演をしていただきました。

また石田さんは前日、京都の町屋「さむらいカフェ&バーの店」で同志社大の現役学生10数名にも特別ミニ講演をしていただきました。参加した学生達も大喜びでいろんな質問をしていました。石田さん美味しい会津のお米とお酒ありがとうございました。

## 【2012年度の京都支部の行事予定】

に向けた取り組みを行っていきたいと思いま

1. 新年会一月二十九日（日）実施済
2. 春の歴史散策（黒谷界隈史跡めぐり）五月二十日（日）
3. 黒谷の会津会法要（有志のみ）六月十日（日）
4. 夏の祇園祭り鉾建て見学と納涼祭七月一四日（土）
5. 秋の歴史散策（鳥羽伏見の戦い第2弾）と忘年会十一月二四日（土）

京都支部としては、これからも会員との親睦や、他支部との交流を図りながら会員拡大



石田ご夫妻（中央）と支部メンバー

# 下関支部報告

支部長 吉井克也

## 一 はじめに

平成二十三年三月十一日の東日本大震災と原発事故によって、西日本にすむ私たちは、「今何をするべきか」「今なにができるか」など、人間としての本源的な問いを突きつけられている…。そんな思いの中で、下関支部の新年度が始まりました。

## 二 平成二十三年度の活動報告

四月一日 東日本大震災被災地への

義援金募集（三月二十日に開始）

五月二十三日

講演「会津・長州の友好にむけて」

五月二十六日 第一回役員会

大熊町・椎葉町に本部から義援金贈呈

五月三十一日 県立豊浦高同窓会による

会津から民芸品購入の仲立ち

六月五日 神戸岩蔵墓地道づくり

六月二日

講演「会津・長州の友好にむけて」

講師／吉井 主催／市退職校長会

七月三日 研修① 「義と志の長州路を旅する」

七月九日

講演「会津・長州の友好にむけて」

講師／吉井 主催／歴史愛好会

八月二日 神戸岩蔵命日（墓参）

八月二十九日 第二回役員会

九月三十日 研修会② 「山川健次郎」と除幕式

前日・当日の役割分担等

十月十九日 健次郎靈石除幕式前夜祭

（下関市長公式訪問・講演会・懇親会）

十一月二十日 健次郎靈石除幕式・慰靈祭・平和記念祭・昼食会

一月三十一日 第三回役員会（総会準備・研修会）

二月二十四日 平成二十三年度総会

書館には、神戸岩蔵の墓地についての問い合わせが増え、時折墓参もある。

④「義と志の長州路をいく」研修①

○コース（参加者9名）

船越清蔵顕彰碑・生家跡△来島又兵衛屋敷跡△権崎屋敷跡（貞吉養育の地）△大田（金麗社官修墳墓俗論覚墓）△長登銅山資料館△絵堂（銃弾痕）△地蔵堂△藩校明倫館△野山獄・岩倉獄△前一誠墓地△松陰神社△松陰墓地

## 三 主な活動について

①未曾有の大震災と原発事故について

○「何ができるか」について何度も話し合い、取りあえずは、義援金の募集を開始。

○行政にも親書送付の働きかけをする。

○下関の「ふく鍋隊」に香井会員が参加。

福島市のあづま総合体育館で会津若松支部の小日向様が訪ねてこられ香井さん大感激

○大田・絵堂の戦いは、真っ二つに割れた藩論

を統一し、長州が倒幕・明治維新に邁進していく上で重要な戦いであった。勝利した倒幕

派（正義派）の戦没者は、明治四年に官修墓

地が造られ、大切に弔われているが、幕府恭

順派（俗論党）の戦没者の墓は、川土手にボ

ツンとあり、近くの農家の人が守っている。

○地蔵堂には、白虎隊白刃の絵が奉納されておりお堂にはいると名状し難い感情が湧いてくる。

○十九名の白虎隊士と、戊辰戦争戦没者全ての御靈に祈りを捧げる。

③神戸岩蔵墓について

○昨年度の道づくりは、時間の都合で途中から仮の近道をつくったが、今回は、残りの正規の赤線道を切り開いた。支部事務局や長府団



### (3)健次郎墓石除幕式前夜祭について

○十五時、市長に公式訪問を行う。訪問者は次の十名（飯沼、木下、中村、正井、柏木夫妻、伊藤、吉井、渡辺、藤田）その後、貞吉初任の地田中綱代記念館（旧赤間関通信局）、乃木神社（健次郎が尊敬していた乃木希典が祭神）を訪問し、ホテルにチェックイン後、会場に向かう。

○会場の豊功神社は、長府毛利五万石の歴代藩主が祭神であり、戊辰戦争に出撃した報国隊士たちも祀られている。眼下に広がる海は関門海峡東側の入り口で、満珠と干珠という伝説にいろいろとされた二つの島がある。また、源平合戦で平氏と対陣した源氏の水軍が、陣を構えた場所もある。

○前夜祭は「講演会」の会と一部制で行われた。

#### 【第一部】講演会（五十五名）

・「山川健次郎」 講師 木下 健様

・「健次郎と貞吉」 講師 飯沼一元様

明日の除幕式にむけて、健次郎や貞吉の人物像、と日新館教育、奥平謙輔や植崎頼三との関係、業績等について大変分かりやすくお話をしていたとき、一同目を輝かせて傾聴した。

#### 【第二部】懇親会（四十六名）

○ご来賓として、遠路からは、木下様、飯沼様を始め、柏木様ご夫妻（健次郎顕彰会）、中村様・正井様（本部役員）、山内様・石橋様（明專会）、高橋様・伊藤様（東京、京都支部会員）にご

出席を頂く。また、下関市からは、吉川副市長、波佐間教育長、河原総合政策部長、安富下関中央図書館長さらに民間からは、野村文化協会会長、富永志士の杜理事、金田友の会会長、などの方々にご出席を頂き出席者は総勢四十名で行われた。

○懇親会は、自己紹介、のんのさん（福嶋会員の奥様）の心に染みる歌唱、村田会員による乃木希典作の漢詩「爾靈山」の吟詠、そして歓談とおおいに盛り上がり、「抱く心も溶け合う」ような秋の宵の一刻となつた。

### 四 おわりに

平成二十二年十月一九日以来「神戸岩蔵墓地の整備と慰靈」そしてこの度の「健次郎靈石安置」にいたるまで、本当に多くの方々のご支援をいただきました。ありがとうございました。

健次郎や貞吉を始め、幕末・明治維新期を生きた志士たちはみな、「義」「志」「動」を自らの『守り本尊』として生きたのだなど、そんなことを学びました。

会津・長州には今も複雑で根深い問題があることは承知しておりますが、これを後の世にまで持ち越す不幸を断ち切ることが、今を生きる私たちの使命ではないでしょうか。



# 長州の方々の情誼に哭く

## 恩讐をこえての日本人の心と絆に触れる 会員 柏木隆之助

平成二十三年十月二十日。雲一つ無い秋晴

の紺碧の空の下。曹洞宗臨済金山功山寺万骨塔にて、山川健次郎靈石安置除幕式が列席者百数十余。功山寺住職京都大学名譽教授宗教哲学最高權威有福孝岳様の導師のもと肅然と執り行われました。

功山寺は嘉暦二年（1327）創建。鎌倉、南北朝室町織豊徳川時代より毛利家の菩提寺として明治維新今日迄約七百有余年の歴史のある西日本一の古刹です。中でも幕末史の文久三年八月十八日の京都クーデター政変での七卿落ちの潜居の地。元治元年十二月十五日夜半大雪。中天にかかる満月の光を浴びて白皚皚の中高杉晋作は五卿に『長州人の肝つ玉をお見せします』と告別の挨拶し、挙兵明治維新回天の扉を開く。明治維新回天の地の宏壮な寺院です。

万骨塔は、昭和八年十月 桂弥一先生が  
一将功成り万骨枯る  
万骨遺芳名を偲ぶ時  
誰か千載不祀の恨みを  
懷かざるをものあらんや  
の趣意で設立さる。

此の度

・府博物館友の会会长 金田 满男様

・下関市教育委員会教育委員長 吉井 克也様

・山口県議会議員 自民党幹事長

・下関市長 伊藤 博様 中尾友明昭様

・白虎隊京都支部長 豊浦高校近畿同窓副会長

・白虎隊京都支部長 豊浦高校近畿同窓副会長 中村 正様

・福島県会津若松市より 石田 明夫様

・山川健次郎先生曾孫 東京大学工学部教授

・白虎隊 飯沼貞吉翁孫白虎隊事務局長 佐藤 一男様

・白虎隊 飯沼貞吉翁孫白虎隊事務局長 木下 健様

・白虎隊 飯沼貞吉翁孫白虎隊事務局長 飯沼 一元様

その他多くの方々の温かいお心で山川健次郎先生の御魂を万骨塔にお迎えせんとする運動が湧き上がり実施。

戊辰戦争勃発東軍・西軍干才を交え鳥羽伏見以後戦火は東北へ移り最大の激戦会津若松鶴ヶ城攻防戦白虎隊出陣し慶応四年（1868）八月二十三日飯盛山にて十九士自刃す。

爾来百四十三年の星霜風雪春秋を経泉下での再会さぞお喜びと存じます。戊辰戦争、長州と会津いろいろ在りました。だが、何と言

う人間の絆。愛。

山川健次郎先生は奥平謙輔先生、前原一誠先生。飯沼貞吉先生は樺崎頼三先生の崇高なる人間愛に救われ逆風の中に世に出て近代日本建設に貢献されました。

今、日本は3・11の未曾有の国難に遭い国民は「絆」の言葉をお互いに胸に刻み日本再生に邁進しています。私は今回の下関長府功山寺万骨塔靈石安置を全国民「絆」として知つて欲しいと思っています。



山川健次郎先生靈石序幕式に参加して  
(右端筆者)

# 東京支部報告

支部長 渡部 麗

毎週水曜日、御茶ノ水で開催している「レキシズルバー」。全国から歴史好きが集まり、活発なコミュニケーションが行われています。そこで昨年末から、お客さんが自身の好きな歴史や人物を語る「数寄語り」というものを始めました。その流れで、今年の11月25日に「数寄語りスペシャル」と題して、飯沼さんに語つて頂きました。テーマは「孫が語る、長州に行つた白虎隊士・飯沼貞吉」。

多くの、その敵方である白虎隊士が長州に行つた事実を僕が打つた告知で知り、大変興味を抱いていました。そして当日30人以上の歴史好きが集まり、飯沼さんのプレゼンが素晴らしかったのが大きいですが、大変盛り上がりました。このテーマに興味はあるが、東京に来れない人たちのためにユーストリームを使い、リアルタイムで映像配信もしました。そちらも100人以上視聴され、大きな反響がありました。

僕自身としてもこの知られざる事実を飯沼さんから初めて聞いたとき、鳥肌が立ち、そして感動しまし



渡部商店が経営するレキシズルバー入口付近で。  
毎週水曜日夜7時から開催。御茶ノ水駅近く。

2011年は、震災のチャリティさるくを開催したり、会員の増強を図りました。一名の増員がありまして。昨年12月には、会津と長崎の関係を知るために「会津の陰の恩人・足立仁十郎」の勉強会を実施し、今までこの飯沼貞吉という人物の運命と長州との縁が現代に蘇ることで、何かいい方向に動くきっかけになるのではないかと思わずにはいられません。レキシズルという歴史好きが多く集い、彼らに情報を届けられるメディアとしてのポジションに僕はいるので、もっと幕末の知られざる感動のエピソードを伝えていきたいと思っています。



会津藩御用達の商人・足立仁十郎肖像



た。一世紀半を経ても未だ會津と長州のわだかまりは消えていません。

さるくを開催したり、会員の増強を図りました。一名の増員がありまして。昨年12月には、会津と長崎の関係を知るために「会津の陰の恩人・足立仁十郎」の勉強会を実施し、今までこの飯沼貞吉という人物の運命と長州との縁が現代に蘇ることで、何かいい方向に動くきっかけになるのではないかと思わずにはいられません。レキシズルという歴史好きが多く集い、彼らに情報を届けられるメディアとしてのポジションに僕はいるので、もっと幕末の知られざる感動のエピソードを伝えていきたいと思っています。

2011年は、震災のチャリティさるくを開催したり、会員の増強を図りました。一名の増員がありまして。昨年12月には、会津と長崎の関係を知るために「会津の陰の恩人・足立仁十郎」の勉強会を実施し、今までこの飯沼貞吉という人物の運命と長州との縁が現代に蘇ることで、何かいい方向に動くきっかけになるのではないかと思わずにはいられません。レキシズルという歴史好きが多く集い、彼らに情報を届けられるメディアとしてのポジションに僕はいるので、もっと幕末の知られざる感動のエピソードを伝えていきたいと思っています。

れました。

今年は「長崎の中の会津」をテーマに「ならぬものはならぬ」の会津の精神を、山国の厳しい風土の中で純粹培養された会津藩の不屈の魂と人材育成の精神は、遠く離れた長崎の地で脈々と息づいていたことを、来年の大河ドラマ「八重の桜」の前に長崎の人々に訴えていきます。

# 長崎支部報告

支部長 工藤 新一

日下義雄の功績を広く知らせるために、中島川上流の中川カルルスの案内板の設置を目標にすることを確認しました。

草場会員（右端）が日下義雄を所属する会の会報に発表し、高久会員（左端）は所属のライオンズクラブで日下など会津と長崎の関係を発表しました。支部顧問の大堀会員（中央）は、御自分の博物館で館長トーケとして「会津藩」を三回にわたり講演さ

# 白虎の旅～大懇親会

京都支部会員 司 太夫

平成23年9月22日、昼の厳粛な「除幕式」を終え、夜は一転、親睦をはかるため「大懇親会」が催されました。

会津若松東山温泉『くつろぎの宿新滝』。江戸時代は藩主松平氏の別荘であり、明治時代から数多くの文豪に愛され、特に武久夢二の作品が多く残されている老舗旅館。新撰組土方歳三も浸かつたという。ここで、我ら「白虎隊の会」の懇親会が行われました。

始まる前からドキドキ。そうなんです。『会津藩第十四代当主松平保久様』我らの殿様がご臨席くださるのです。大変お忙しい身。先約の時間を調整してのご出席、大感激です。18時開始。殿から頂いたお時間は30分。進行役の私としては気が気ではありません。  
(あゝ始まり5分遅れた)

先ずは開会挨拶を、事務局長飯沼一元氏からお願いする。そして、殿様にご来賓のご挨拶を頂く。(とりあえずはホッ.)

お帰りになる前にやはり見て頂かねば:会津が誇る東山温泉の芸妓の踊り:うくん、殿は何度もご覧かもしけれど、初めての方もいらっしゃるだろうし、曲はやっぱり『白虎隊』。芸妓の「実千代」さんの三味線で、「紀千代※のりちよ」さんが鉢巻キリリと刀を持

ち踊ってくださいました。そして、ドラマ『白虎隊』の主題歌『愛しき日々』を「真衣」さんが披露してくださいました。

(私は何度も泣いてします。)

殿がいらっしゃる間に記念撮影。そして、乾杯は白虎隊の会副会長木下健様(山川健次郎曾孫にあたられる)にお願いする。

「乾杯」と同時に殿はご退席。お忙しい中、ありがとうございました。後は時間の許す限り(笑)。芸妓さん達に入つて頂き宴は盛り上がる。これだけ各地から会員の集合は初めての事で自己紹介タイムへ。時間は延びたし座敷遊びタイムは無くなりましたが、各自かなり盛り上がりホツとしました。

宴だけなわの中、そろそろ閉会です。挨拶は会津支部長真部正美様にお願いする。次の日の「会津祭」「墓前祭」とまだ行事は続きます。しっかりと閉めていただき閉会。

余談ですが、芸妓さんたちはいつもより緊張したそうです。「実際のご子孫の方がいらっしゃる上、会津に詳しい方ばかり、気合いは入りまくり」(笑)。なお、芸妓置屋『花の屋』さんからお酒の差し入れが出ていました。京都では考えられない事ですね。会津の心意気がここにも感じられた宴でした。



お殿様(前列左から4人目)を囲んで。中列左端は筆者。

# 会津と下関を訪れて

京都支部会員 伊藤麻弓

9月22日から24日かけて「会津白虎の旅・除幕式と会津祭」に参加しました。前日の台風の影響で新幹線のダイヤが乱れたため、22日の京都駅のホームは雑踏状態。ぎゅうぎゅう詰めの始発に何とか乗り込み、東京へ。東北新幹線に乗り換えて郡山に着き、ここまで来たら一安心と思ったのも束の間。会津若松へ行く電車が不通になっていたのです。バスも全く動いておらず、京都支部長たちは、一足遅いでタクシーで出発された後でした。飯盛山の白虎隊士のごとく孤立無援の状態でしたが、気を取り直してタクシーに乗車。会津若松のホテルの入口で飯沼さんの姿を見た時は、本当にホッとしました。

午後からは「自刃の地説明板除幕式」に参列し、

自刃に至る正しい経過が、一人でも多くの人に伝わるように願いました。また、サクソホン奉納の「荒城の月」を聞きながら、栄枯盛衰は世の習いとはい、鶴ヶ城攻防戦はむごい戦いであつたなあという思いをさらに強くしました。式の後は、飯盛山一帯を観光。2代に訪れた時の観光気分とは全く違つて、白虎隊の歴史を一から勉強し直した一日でした。



翌23日は「会津藩公行列」の出陣式を見物し、その壮大さに驚きましたが、それだけの歴史があるのだと納得。行列の出発を見送った後は、石田明夫氏にガイドブックにはない裏情報を教えていただきながら、鶴ヶ城一帯を巡りました。特に「降参」の白旗を立てという場所では、当時の無念さを想像。午後から見学した阿弥陀寺と旧東明寺では、

会津藩士と西軍将兵の埋葬の仕方の違いに啞然！

「死んだ後も、なぜこんなに差をつけられねばならないのか」と新政府軍への怒りが込み上げてきました。その後、近藤勇、萱野権兵衛、郡長正のお墓を参拝し、ご冥福をお祈りしてきました。夜は東山温泉で大懇親会があり、多くの方々と楽しい時をすごしました。

最終日は「飯盛山墓前祭」。この日、木下先生、司太夫さんと一緒に乗ったタクシーの運転手さんが「飯沼さんの予約でしたが、関係のある方ですか。」と聞かれたので、司太夫さんが「お孫さんですよ。この方は山川健次郎さんのひ孫です。」と説明されると、運転手さんはとても感動されたようで、私は「さすが会津や。」と嬉しかったです。墓前では、会員の皆様と共に、隊士の残した義を思い手を合わせました。そして、白虎隊剣舞を見学。気迫あふれる舞は期待どおり素晴らしく、当時の様子を偲ぶことができ、涙しました。

解散後、板東俘虜収容所の所長だった「松江豊寿」が市長を務めた旧市役所の跡地に立つ説明板を見

長になつてから飯盛山の墓地整備に尽力したといふことを知り、私の中でこの人の存在がとても大きくなつていていたからです。説明板は、見逃してしまった所にあり、会津若松市は、もつとこの人に光を当ててほしいと思いました。それから七日町通りをブラブラ歩き「ならぬことはならぬものです」という日本酒を買って、会津の旅は終わりました。

10月19、20日は「萬骨塔慰靈祭」と「山川健次郎靈石除幕式」に参列するため、下関へ行つて來ました。前夜祭で木下・飯沼両氏の講演を聴き、

山川健次郎と飯沼貞吉の数奇な人生を改めて思い返し、その後の懇親会では、下関支部の方々ともお話をることができ、意義深いものとなりました。翌日の除幕式は和やかな雰囲気の中で行われ、そこに至るまでのことを思うと感慨深いものがありました。式の後、慰靈祭に参列し、平和を祈念してきました。

今回、会津と下

関を訪れて、いろんな方と接するこ

とができ、また、新たに知ったこと

が多く、実りあるものだつたと思い



# 白河見聞館の設立

会員担当役員 安司弘子



戊辰戦争「白河口の戦い」の激戦地稻荷山。東軍の陣地となり、奥州街道を攻め上る西軍と向き合つた場所である。ここに白河口総督の会津藩家老西郷頼母の歌碑がある。

「うらやまし角をかくしつ 又のへつ

心のままに身をもかくしつ」

まさに役後の心中のにじみ出でている歌である。競売に出ていた歴史的この場所が、他に開発されることを危惧し競り落としたという、堀田節夫氏の存在を私が知り尊敬の念を持つたのは数年前になる。歌碑は西郷頼母研究家である堀田氏の建立による。

2011年7月30日、戊辰戦争資料館「白河見聞館」が開館した。3・11の東日本大震災により開館が危ぶまれた中、当初の予定を3か月遅れての感動的なことであった。

ここに展示されている会津藩関係の書簡および掛け軸や額は、白虎隊士飯沼貞吉の弟飯沼関弥の御子孫飯沼一之様が所蔵されていたものを、西郷頼母実弟の御子孫山本英一様と堀田節夫様の仲介により寄贈いただいたものです。

特に飯沼関弥収録書簡集「山高水長」は、関弥が親族と交わした書簡や、松平家の家令として松平容保をはじめとする、旧会津藩関係者より差し出された書簡百数十通を、内容に応じて「仁」「義」「礼」「智」「信」の五巻にまとめて収録・保存したものです。

内容は公私多岐にわたり、大変貴重で歴史的にも価値が高いのですが、ほとんどが未発表のものであり、解読されているのは一部のみとのことです。今後の解読・研究の成果を期待したいと思います。

「白虎隊の会」の会長、顧問、事務局長とのご縁で実を結んだこの資料館が、広く注目を浴びる機会が来ようとしています。2013年放映予定のNHK大河ドラマ「八重の桜」です。奥州の入り口として古来より要衝の地であった白河は、戊辰戦争においても100日もの間白河城を巡つて東西両軍が攻防戦を繰り広げる激戦場となりました。1000人以上の戦死者を出し、山本八重（のち新島八重）がスペンサー銃をもつて若松城で奮戦する会津戦争へのプロローグでした。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故：福島県の置かれた状況に鑑み、風評被害を払拭すべく会津の女性がヒロインに選ばれ、

福島県の観光は「八重の桜」を核としたキャンペーンを開催しております。

白河地方もこれに連動し、戊辰戦争前後の歴史を素材として観光振興を目指しています。私は「『桜』プロジェクト」と名付けたこの事業に携わらせていただいており、この機会に「白河見聞館」の価値を更に訴えていきたいと考えています。



白河見聞館入り口。正面の白い建物が見聞館(楽蔵内)。

白河市中町65電話0248-29-8630

# 本部便り

## 1.会員

会員2012年3月末現在、会員総数は143名(昨年比+13名)、うち特別会員15、一般125、賛助4名である。支部別では会津56、東京26、京都21、下関18、長崎8、[静岡3\(新規\)](#)、その他11名である。逝去者1名(玉川芳男氏:物故会員)。退会者2名。その他の中には仙台が多いので、仙台支部の立上げが期待される。

## 2.活動

活動主な活動実績は表に示すとおりです。青字は、本文に記事が紹介されています。

| 年月日           | 主な活動内容(予告を含む)                                |
|---------------|--|
| 2011年4月2日     | 年次総会(インターネットで)                               |
| 2011年4月16日    | 会報創刊号発行                                      |
| 2011年4月24日    | 春の飯盛山墓前祭参加(会津支部)                             |
| 2011年5月26日    | <a href="#">会津義援金(原発避難中の大熊町および楢葉町へ各10万円)</a> |
| 2011年6月4日     | 鳥羽伏見史跡めぐり                                    |
| 2011年6月12日    | 京都会津会黒谷法要への参加、京都支部会合                         |
| 2011年7月30日    | <a href="#">白河記念館設立記念招待講演</a>                |
| 2011年9月18日    | <a href="#">京都府庁旧本館連続講座「幕末京都新発見」講演</a>       |
| 2011年9月22日    | <a href="#">会津義援金(会津若松市青少年育成のために10万円)</a>    |
| 2011年9月22日    | 飯盛山白虎隊自刃の地説明版除幕式                             |
| 2011年9月23日    | <a href="#">白虎隊の会大懇親会(東山温泉新湧)</a>            |
| 2011年9月24日    | 秋の飯盛山墓前祭参加                                   |
| 2011年10月19日   | 下関支部の史跡めぐり講演会ならびに会合                          |
| 2011年10月20日   | <a href="#">下関長府功山寺萬骨塔 山川健次郎靈石安置除幕式</a>      |
| 2011年12月11日   | <a href="#">京都支部ミニ講演会ならびに忘年会</a>             |
| 2012年1月25日    | <a href="#">東京支部講演会「長州に行った白虎隊士飯沼貞吉」</a>      |
| (予告)2012/4/2  | 年次総会(インターネットで)                               |
| (予告)2012/4/16 | 会報第2号発行                                      |
| (予告)2012/4/24 | 春の飯盛山墓前祭参加(会津支部)                             |

## 3.決算報告

| 白虎隊の会  | 貸借対照表        |         | 単位(円)   | 損益計算書     |         | 単位(円)                       |
|--------|--------------|---------|---------|-----------|---------|-----------------------------|
|        | 資産の部         | 負債の部    |         | 収入の部      | 支出の部    |                             |
| 現金及び預金 | 930,908      | 短期借入金   | 1,109   | 会費等       | 363,500 | <a href="#">説明版・靈石</a>      |
|        |              | 未払金     | 176,850 | 会津寄付      | 290,000 | <a href="#">会誌(未払い金)</a>    |
|        |              | 負債の部合計  | 177,959 | 靈石寄付      | 395,000 | WEB使用料                      |
|        |              | 前期繰越残高  | 345,509 | 受取利息      | 56      | 通信費                         |
|        |              | 本期剰余金   | 394,649 | 雑収入       | 6,000   | <a href="#">消耗品雑費等(名刺等)</a> |
|        |              | 次期繰越残高  | 752,949 |           |         | 1,552                       |
| 資産の部合計 | 930,908      | 負債純資産合計 | 930,908 |           |         | 寄付金(会津義援金)                  |
| 会計監査   | 平成24年3月31日現在 |         | 合計      | 1,054,556 |         | 300,000                     |
|        |              |         |         |           |         | 394,649                     |
|        |              |         |         |           |         | 1,054,556                   |

## 4.会計監査

平成23年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

平成24年3月31日 会計監査役 緑川 正和 印

## 5.2012年度の計画

新規会員獲得目標20名、総事業費は60万円を予定。

- 1.飯盛山に「白虎隊が辿った道」の説明版設置を検討。
- 2.山本八重と白虎隊にまつわる企画推進。
- 3.白虎隊士飯沼貞吉と山川健次郎と長州との関係を史跡化する方法の検討。
- 4.長崎に日下義雄(自刃白虎隊士石田和助の実兄、初代長崎県知事)の説明版設置検討。
- 5.静岡支部ならびに仙台支部の立ち上げについて検討。

# 白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年(慶応4年)3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いましたが敗れました。

数え年16~17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、20名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで "会津の教え" を健気にも最後まで守り通しました。

"会津の教え" とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないか? 私たちは、白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画 の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同  
文責 発起人代表 飯沼一元

## 《編集後記》

東日本大震災。20兆円の復興予算を本当の復興のために有効に使って欲しい。だが、どこか不安が付きまとふ。国の舵取りを託すに足る人材が不足している。損得勘定から一向に脱却できない政党。何も決められない国会・・・しかし、日本には混沌の中から逞しく立ち上がってきた輝かしい歴史がある。その歴史の中で、誇り高く生きた多くの先人がいる。彼らの生き方を謙虚に学ぶことから、閉塞打開の道筋が見えてくるかもしれない。

140余年前の戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて2年。多くの人の出会いがあり、実に多くのことを学ぶことができた。この輪を一人でも多くの人に広げたい。"義"に生きた白虎隊士を現代の若者に伝えたい。会誌第2号は前号より4ページ増やしました。継続は力なり。続けることが大事であると、自分を戒めながら、3年目に向かいます。

飯沼記

♪白虎隊の会について♪  
★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千円です。  
5年分一括納入へのご協力をお願いしています。))

## 【白虎隊の会】事務局

〒156 0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654

発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページ : <http://byakko1868.web.fc2.com/>